

香りのする道辺づくり

バイパスが出来ると、従来の狭い道が住民の足下道路として帰ってくる。その場に、かつて生き生きとしていた生活空間を再現できないだろうか。それをチャームポイントとして、旧道一帯を整備し、もはや無用とばかりバイパスを通り過ぎる車の人々に立ち寄ってもらう。そのために、旧道はもう一度おしやれをする。

もともと、日本人は、草花の好きな国民で、大きな庭から小さくは軒下に花を飾るなど、至るところ、花で埋め尽くすのを好んだ。この感性、性質は今も生きている。そこで、沿道及び一定奥行きの人家の庭から垣根を取っ払い、春はクチナシ、秋はキンモクセイなどの香りの道辺とし、さらに一帯に、情報案内、休憩等の道の駅と同等の機能を持たせる。このためには、旧道の付近の住民がその気になって推進する必要がある。